

# 定住対策として アクションプランを策定中

人口減少と少子高齢化が三豊市の大きな課題となりつつあることを、ほとんどの人が認識として持たれているのではないのでしょうか。  
 今月は、この人口減少と少子高齢化の対策として「定住対策」について考えてみたいと思います。

## 人口減少、少子高齢化の進行

人口減少・少子高齢化はどのようにしようとも防げない。つまり、施策として対策を講じて、大きな効果が期待できないのではないかと、という指摘があることも感じます。

しかし「自治」の仕組みとして「負担と給付のバランス」を一つとつても、そのバランスが崩れると、さまざまな分野に影響が始め、そのまま放置すると、自治全体のバランスが崩れてしまう心配もあります。

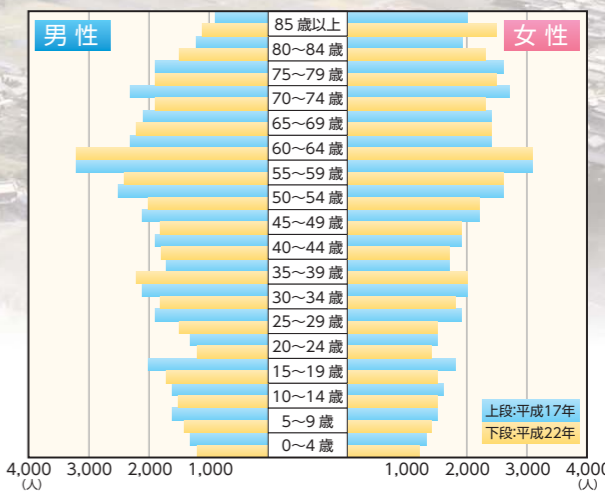
そのためには、その現象を

早くキャッチし、適切な時期から対策を講じ、バランスが崩壊することのないよう措置することは、その時期、その時々々の責任として求められているのではないのでしょうか。

## 三豊市の実態

ここで、三豊市の人口と人口構成の推移を再確認してみたいと思います。合併前になります。平成17年に実施された国勢調査では、三豊市を構成する7町の合計人口は、71,180人でした。

これが、平成22年に実施された国勢調査では、68,512



## 年齢別(5歳階級別)人口の推移

出典：平成17年・平成22年国勢調査

区分	平成17年			全人口に占める割合
	総数	男	女	
総数	71,180	33,836	37,344	100.0
85歳以上	2,899	869	2,030	4.1
80~84歳	3,147	1,199	1,948	4.4
75~79歳	4,545	1,927	2,618	6.4
70~74歳	4,910	2,255	2,655	6.9
65~69歳	4,505	2,073	2,432	6.3
60~64歳	4,716	2,309	2,407	6.6
55~59歳	6,315	3,195	3,120	8.9
50~54歳	5,058	2,491	2,567	7.1
45~49歳	4,314	2,068	2,246	6.1
40~44歳	3,777	1,858	1,919	5.3
35~39歳	3,423	1,715	1,708	4.8
30~34歳	4,177	2,144	2,033	5.9
25~29歳	3,783	1,884	1,899	5.3
20~24歳	2,843	1,325	1,518	4.0
15~19歳	3,848	1,999	1,849	5.4
10~14歳	3,240	1,644	1,596	4.5
5~9歳	3,029	1,559	1,470	4.3
0~4歳	2,651	1,322	1,329	3.7
不詳	-	-	-	-

区分	平成22年			全人口に占める割合
	総数	男	女	
総数	68,512	32,616	35,896	100.0
85歳以上	3,563	1,101	2,462	5.2
80~84歳	3,781	1,466	2,315	5.5
75~79歳	4,411	1,938	2,473	6.4
70~74歳	4,246	1,906	2,340	6.2
65~69歳	4,622	2,221	2,401	6.7
60~64歳	6,269	3,167	3,102	9.2
55~59歳	4,998	2,437	2,561	7.3
50~54歳	4,280	2,046	2,234	6.2
45~49歳	3,704	1,811	1,893	5.4
40~44歳	3,503	1,770	1,733	5.1
35~39歳	4,199	2,175	2,024	6.1
30~34歳	3,667	1,833	1,834	5.4
25~29歳	3,028	1,522	1,506	4.4
20~24歳	2,645	1,249	1,396	3.9
15~19歳	3,185	1,729	1,456	4.7
10~14歳	3,051	1,547	1,504	4.5
5~9歳	2,875	1,436	1,439	4.2
0~4歳	2,420	1,217	1,203	3.5
不詳	65	45	20	0.1

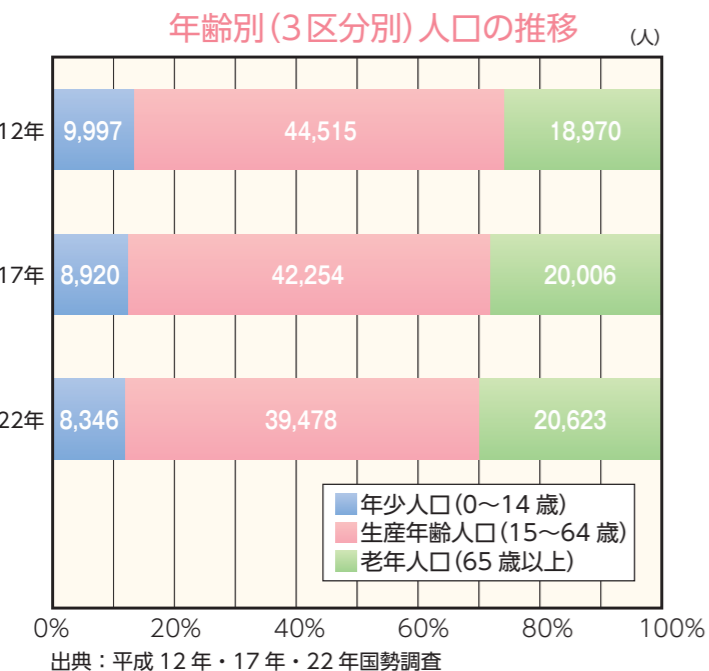
が一段階上がりました。逆に少ないのは、0~4歳が3.5%、20~24歳が3.9%と、ピーク階層の半数以下となっています。

平成12年から22年までの10年間の人口を、0~14歳の「年少」15~64歳の「生産年齢」65歳以上の「老年」に3区分した統計を見ると、年少では1,651人の減少、生産年齢では5,037人の減少とな

## 定住対策アクションプラン

このように、人口減少や少子高齢化は徐々に進んでいき

り、老年は、逆に1,653人の増加と、年少および生産年齢人口は減少し、老年人口は増加と、少子高齢化は確実に進行していることがわかります。



出典：平成12年・17年・22年国勢調査

三豊市では、平成23年度から、定住対策事業への取り組みを始めました。まず、第一弾として、若者住宅建設補助、高校・大学等の合宿誘致、短期滞在助成事業の3事業を開始しました。若者住宅建設補助については、これまでに27件の申請を受け付け、補助金額にして2,530万円を交付しました。この事業による定住人口は104人となっています。

さらに、計画的に定住対策

## 三豊市型 ライフスタイル

三豊市は、都会のように華やかさや利便性などは乏しいかもしれませんが、都会には無い資源もたくさんあります。それは、海や山の自然であり、温暖な気候であり、安全でおいしい食材などです。これらの資源は、三豊市の財産であり、定住対策の貴重な資源と

事業に取り組みするため、現在、平成23年度から向こう3年間を計画期間とする「三豊市定住対策アクションプラン」を策定中であり、今年中には策定作業を完了させる予定です。このアクションプランには、3年間という短期間に実施可能な、即実践型の施策を反映させたいと考えており、例えば、三豊市にたくさんの人に来ていただき交流を起こす事業、増加しつつある空き家を活用する事業、優良宅地を提示する事業などを検討しています。

また、「働く場所」については、確かに、就職の機会が、都会ほどは無いかもしれませんが、しかし「三豊市型」のライフスタイル」というコンセプトで考えると、必ず展望が開けると考えています。特に、農業や漁業などの第一次産業は、採算性やTPP問題など課題山積のようにも見えますが、実は、こういう時こそ、将来へのスタートラインがあることを歴史が証明しているとも言えます。

つまり、三豊市定住対策アクションプランは、これらの資源を活かして「三豊市型ライフスタイル」を提案することではないかと考えています。今回は「三豊市型ライフスタイル」のさがげとして、三豊市に根を下ろし活躍されているご夫婦をご紹介します。

▼問い合わせ  
 バイオマスタウン推進室  
 ☎73・3028